横浜市感染症臨時情報　　2007年7月20日

麻しん（はしか）の流行について（13）

先週に引続き全国的に報告数は、減少していますが、患者発生は続いています。横浜市でも、報告患者数は減少傾向が続いています。学校等からの発生報告もここ2週（第27、28週）ありませんでした。

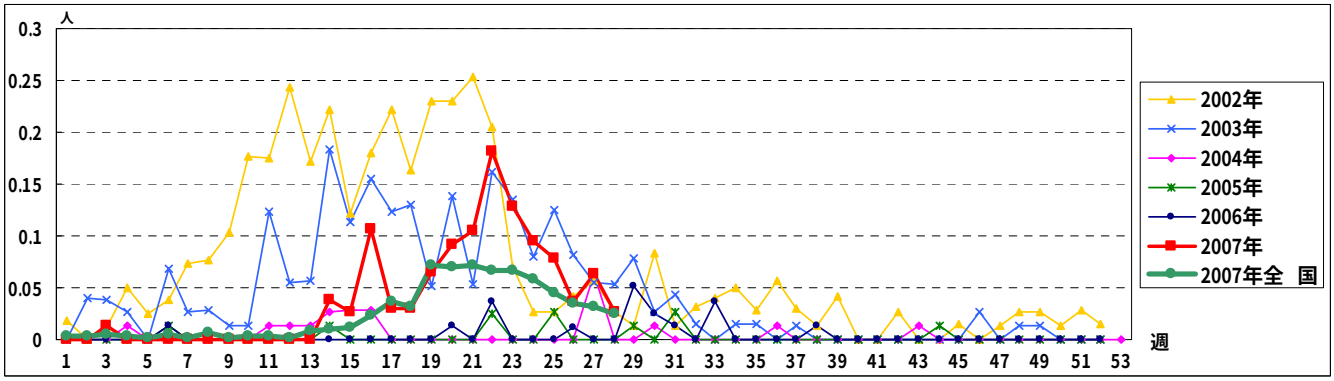
＜感染症発生動向調査による患者報告数＞
麻しん（成人麻しんを除く）の流行状況については、全国で約3000か所、横浜市では84か所の小児科診療を行っている指定届出医療機関（小児科定点）からの報告により、把握しています。
成人麻しん（15歳以上）の流行状況については、全国で約450か所、横浜市では3か所の基幹定点（内科と小児科を持つ300床以上の病院）からの報告により把握しています。
小児科定点および基幹定点からの患者報告は、月曜日から日曜日までの1週間ごとに行われており、1週間単位での集計結果を、ホームページ等で、公表しています。

横浜市では、小児科定点からの報告は、
第28週（7/9～7/15）　2人（15～19歳1人、20歳以上1人）
と、第14週以降、発生が続き、2007年の累計報告数は85と、2006年の年間報告数16の5.3倍になりました。
＊ 15歳以上の患者が、小児科定点を受診する場合もあり、ご報告いただいたものは計上しています。

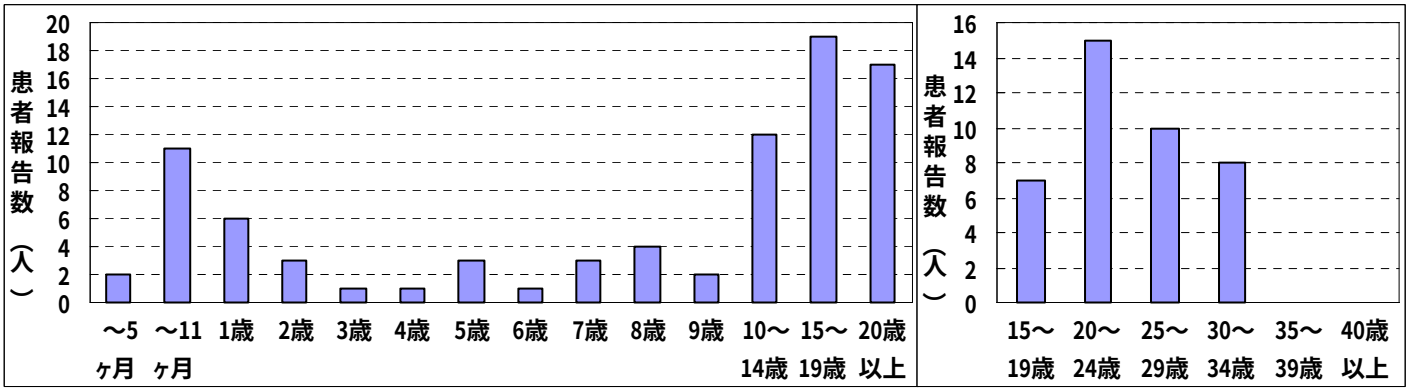
各区別の情報は「横浜市感染症発生動向調査週報一覧　（横浜市衛生研究所）（http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html）」をご覧下さい。

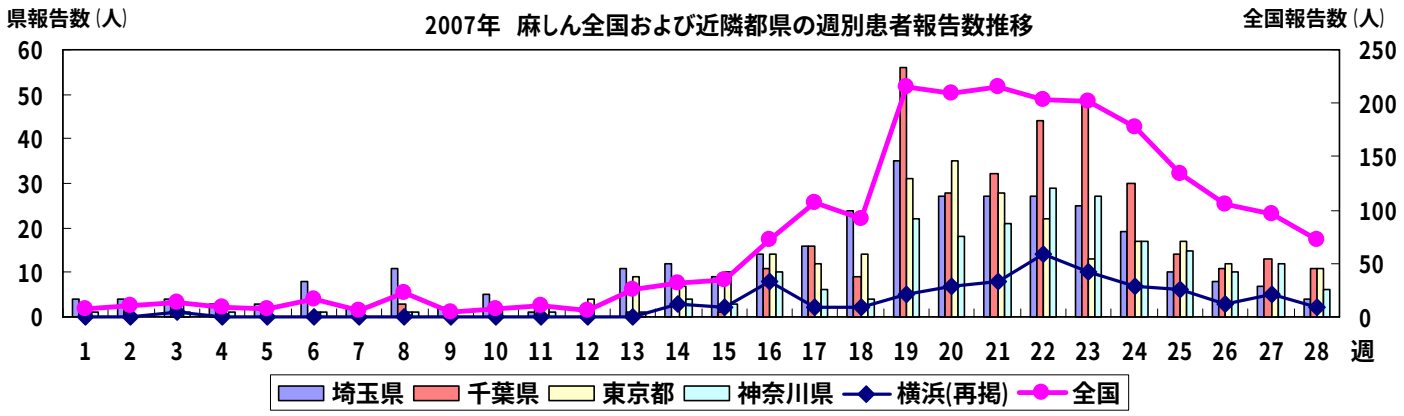
麻しんは、全数報告ではなく、定点からの報告のため、実際の発生数は、もっと多い可能性があります。

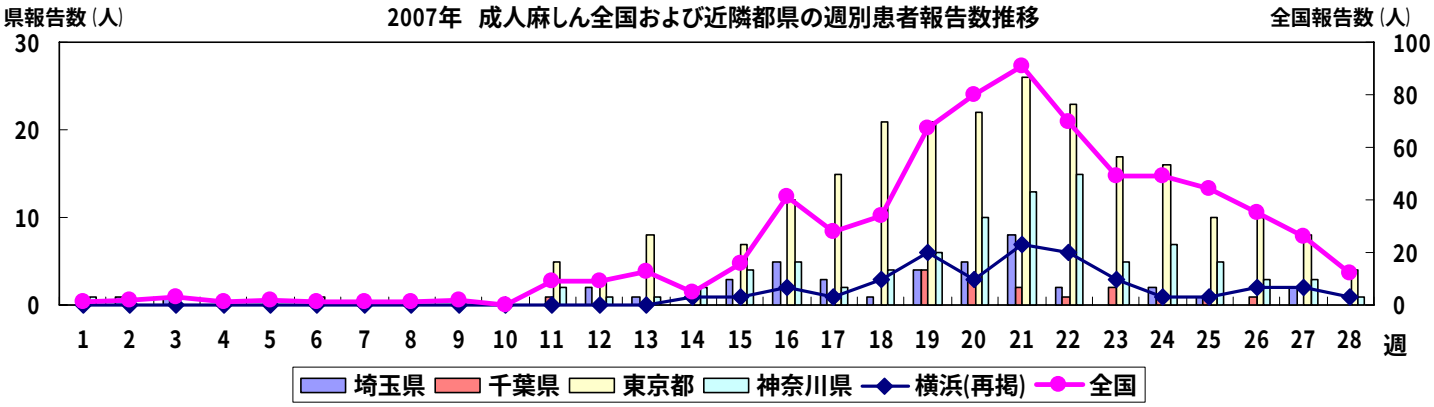
横浜市における麻しん（成人麻しんを除く）定点あたり患者報告数の推移



横浜市における麻しんおよび成人麻しんの年齢別患者報告数　（2007年1～28週）







→ 「2007年　全国と関東における週別麻しんおよび成人麻しん患者報告数」
(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/table.pdf)

＜参考資料＞

・麻疹（はしか）に関する Q&A （厚生労働省）
(http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html)

・疾患別情報　麻しん （国立感染症研究所）
(http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html)
□Q & A (http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/QA.html)
□関連情報　医療機関での麻疹の対応について、保育園・幼稚園・学校等での麻しん患者発生時の対応マニュアル 等
(http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/taiou0610.pdf)

・感染症発生動向調査　週報2007年25週（第25号）「注目すべき感染症」（国立感染症研究所）
(http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2007/idwr2007-25.pdf)

・麻しん発生データベース　報告患者のサマリー　2007/7/10現在
(http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/meas-db.html)

＜かかってしまったら…＞

・乳幼児については、症状出現時は、母子手帳で予防接種歴を確認し、早めに医療機関に相談しましょう。
・10～20代の人は、発熱等出現時は、無理をせず、学校や仕事を休んで、自宅で安静にし、様子を見ましょう。
　→ワクチン接種あり→修飾麻しんなら、比較的軽い経過ですので、自宅で1週間前後療養しましょう。症状が軽くても、伝染力はありますので、外出の基準については、麻しんに準じましょう。個人差がありますので、症状が強い場合や、登校・出勤の判断については、医療機関等でご相談ください。
　→未接種、未罹患→通常の麻しんの経過をとりますので、医療機関を受診しましょう。症状がつらく、合併症にも注意が必要ですので、一人暮らし等では入院が必要な場合もあります。

＜医療機関を受診する時＞

● 必ず事前に電話で以下の事項を伝えて、受診の仕方（時間の指定、待合室の指定など）を確認しましょう。
　1　学校、職場、家族等で麻しんの患者が出ている場合は、その詳細
　2　ご自分の症状と、予防接種歴

● 何も連絡せずに受診し、黙って、待合室で他の患者さんと一緒に待つ事がないようにしてください。

＜予防接種について＞

2006年4月から、MRワクチンの2回接種が開始され、定期接種対象年齢は第1期：生後12～24か月未満、第2期：小学校入学前年の4/1～3/31です。対象者は、速やかに接種しましょう。
特に、第1期（生後12～24か月未満）のできるだけ早い時期の接種が重要です。
未接種・未罹患者には、ワクチン接種が勧められます。

麻しん（はしか）に免疫のない妊婦が感染すると、流産や早産を起こしやすくなるため、未接種・未罹患者は、妊娠前に必ず予防接種を受けましょう。

2007年7月9日、厚生労働省で、「予防接種に関する検討会」が開催され、2012年までの5年間に麻しんの排除を目標とする計画の原案が示されました。

参考：第14回予防接種に関する検討会資料
（http://www.wam.go.jp/wamappl/bb14GS50.nsf/vAdmPBigcategory40/B84FC10179A2C07A49257315000137CD?OpenDocument）

接種機会の確保、接種率向上のための取り組み、麻しん患者発生時の迅速な対応、評価体制の確立等が、対策の柱になっています。
接種機会が1回であった者に対するキャッチアップとして、現在の小学校2年生から高校2年生にあたる10年齢に対する2回目の接種機会を確保するため、厚生労働省は、来年度より、5年間の時限措置として、中学1年生及び高校3年生を対象に、定期予防接種を追加する方針を明らかにしました。
その他の部分については、今後さらに検討していくようです。

国立感染症研究所が、麻しん抗体保有状況について、2006年の暫定値を発表しました。
・麻疹PA抗体保有状況　[2006年度調査暫定値]
　年齢別/年齢群別　麻疹PA抗体保有状況　（http://idsc.nih.go.jp/yosoku/graphA.pdf）
　麻疹ワクチン/MRワクチン/MMRワクチン
　　1回接種者における麻疹PA抗体保有状況　（http://idsc.nih.go.jp/yosoku/graphB.pdf）

＜参考資料＞
・こどものための健康情報　（横浜市こども青少年局）　（http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/）
・「千葉県麻しん対応マニュアル」　（千葉県健康福祉部）
　（http://www.phlchiba-ekigaku.org/measles/Manual%20for%20measles%20of%20Chiba%20Prefecture.pdf）
・＜速報＞高校における麻疹患者発生時の対応事例－福岡県　（http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3302.html）

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課　　(TEL:754-9816)
横浜市保健所　健康安全課　健康危機管理担当　(TEL:671-2463)